

2050年にはがんより大きな問題に！抗生物質が効かなくなる「薬剤耐性(AMR)」とは
国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター

薬剤耐性(AMR)に関する インフォグラフィックを9月20日(水)より公開

国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター(厚生労働省委託事業)は、国際的に脅威となっている薬剤耐性(AMR)対策の普及啓発活動の一環として、インフォグラフィック第1弾「知ろうAMR、考えようあなたのクスリ 薬剤耐性」を9月20日(水)より公開しました。今後、シリーズ化し、薬剤耐性(AMR)に関する情報をわかりやすく発信してまいります。

インフォグラフィックで知る！薬剤耐性 (AMR) vol.01
2017年9月作成

知ろう AMR、考えようあなたのクスリ

薬剤耐性

Antimicrobial Resistance: AMR

現在、薬剤耐性によって世界で70万人が死亡、2050年には1000万人が死亡するといわれています。

抗菌薬(抗生物質、抗生剤)は多くの人々の命を救ってきました。しかし、抗菌薬が効きにくい「薬剤耐性」(Antimicrobial Resistance: AMR)をもった細菌が世界的に増えており、大きな問題になっています。このままでは薬剤耐性による死亡者が、2050年には現在がんで死亡している年間820万人を超える可能性が指摘されています。

今回は、そんな「薬剤耐性」について、より理解が深まるよう、「薬剤耐性とは？」や「主な影響」「予防」についてインフォグラフィックにまとめました。

<http://amr.ncgm.go.jp/infographics/>

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

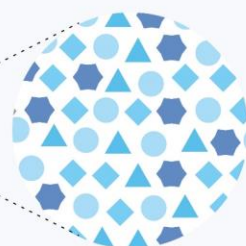
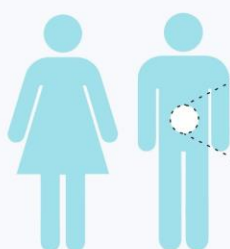
AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

薬剤耐性(AMR)ってナニ？

薬剤耐性とは？

薬剤耐性が生まれるまで

1 通常時



体の中には様々な
害のない細菌が
たくさんある。

2 感染症発症



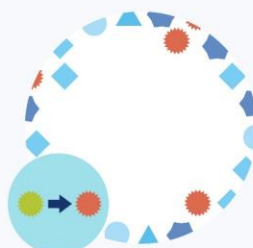
病原菌が増える

3 薬剤(抗菌薬)治療



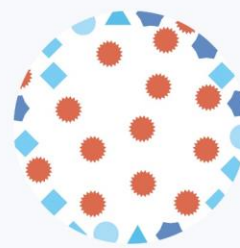
病原菌と共に体に害のない
細菌も退治してしまう

4 薬剤耐性菌が残る



わずかにいた薬剤耐性菌が
生き残ったり、病原菌が変化

5 薬剤耐性菌が増殖



体の中に薬剤耐性菌が
たくさんいる状態になる

※いつも薬剤耐性菌に置き換わるわけではありませんが、抗菌薬を使うほどその機会が増えてしまいます。



薬剤耐性菌

抗菌薬(抗生物質、抗生剤とも呼ばれます)に
対し抵抗力を持ち、薬が効かなくなった細菌。
病院の中でも外でも、薬剤耐性菌が見つかります。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

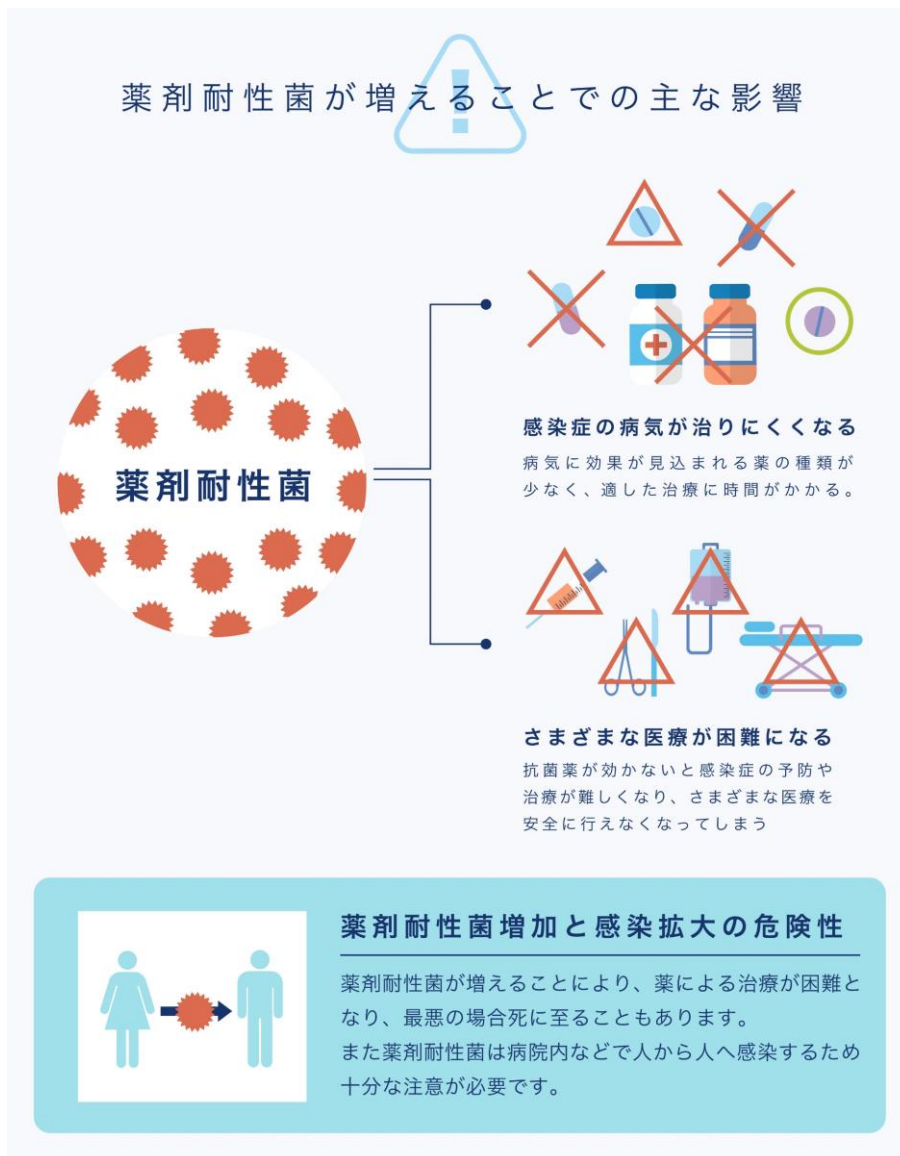
AMR臨床リファレンスセンター広報事務局

担当：小石、佐藤、木下

TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713

E-Mail: info@kartz.co.jp

薬剤耐性菌が増えるとうなるの？



薬剤耐性菌が増えると、これまでは抗菌薬を使えば治っていた感染症でも、治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。このまま増えていけば、現代の医療を継続することが困難となりかねないのです。

< 本件に関する報道関係者からのお問合せ先 >

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

すぐにできる薬剤耐性予防は？



「かしこく治して、明日につなぐ」
～ 抗菌薬を上手に使って AMR 対策 ～



薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためにも、抗菌薬を服用する際は、医師や薬剤師の指示を守って、必要な場合に、適切な量を適切な期間、服用しましょう。

AMR臨床リファレンスセンターについて

AMR臨床リファレンスセンターはAMR対策を推進するため、薬剤耐性（AMR）アクションプランに基づく取り組みを行う目的で厚生労働省委託事業として2017年4月に設立しました。

AMR臨床リファレンスセンターの役割は、AMRに関する情報を広く集め問題を分析し結果をわかりやすくお示しすること、国民の皆さんと医療従事者の方々にAMR対策に必要な知識をお伝えすることです。私たちや子供達が安心して暮らせる環境を作るために、AMRの問題に取り組んでまいります。

▼インフォグラフィックはこちらのURLからもご確認いただけます

<http://amr.ncgm.go.jp/infographics/>



AMR臨床リファレンスセンター
センター長 大曲 貴夫

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp